

臨床法学教育学会  
—2009年度学会活動の概要—

臨床法学教育学会事務局

臨床法学教育学会の学術活動として、4月26日に、早稲田大学において第2回年次大会を開催した。その内容は、学会機関誌『法曹養成と臨床教育』第2号（2009年11月13日刊行）に掲載している。同号には、第2回年次大会での報告の他に、法科大学院制度が動揺するなかでの臨床法学教育の位置付けや、学習科学の知見から臨床方法論の評価を扱う論文等を採録した。また、日本学術振興会科学研究費臨床法学グループとセミナー8件を共催した。学会事項としては、会員総会、理事会、及び委員会の記録を下記に掲載する。これらは『ロースクール研究』第14号および第15号においても報告している。

(1) 第2回年次大会

2009年4月26日 早稲田大学8号館

大会テーマ：「社会の中の法科大学院—臨床法学教育の貢献と協働—」

部会A シミュレーション：1. 東北大学における教育実践の報告 2. 岡山大学における教育実践の報告  
部会B エクスターンシップ：1. 「小規模校におけるエクスターンシップの意義と展望」2. 「都市型法科大学院におけるエクスターンシップの実情」3. 「法科大学院の地域貢献とエクスターンシップの課題」  
部会C クリニック：1. 「離島等司法過疎地における法律相談実習の成果と展望」2. 「夜間・社会人学生を対象としたフレックスタイム制クリニック—4年間の実践を振り返って—」3. 「クリニック全国調査の報告」

全体会シンポジウム「社会の中の法科大学院—臨床法学教育の貢献と協働—」：1. 「弁護士過疎地のための活動—北海道大学とすずらん基金法律事務所—」2. 「生活困窮者のための活動—早稲田大学の民事クリニックによる生活保護申請支援」3. 「会社、学生にとってチャレンジ&切磋琢磨の2週間」4. 「地方自治体における法曹の役割—自治体エクスターンシップの開始に際して—」5. 「霞ヶ関法科大学院生インターンシップ」

(2) セミナーの共催

◎6月13日 早稲田大学8号館

報告題：「ワシントン大学セントルイス・ロースクールにおける上訴クリニック」

講師：ブルース・ラピエール（ワシントン大学セントルイス）

通訳：中村良隆（明治学院大学）

◎6月24日 早稲田大学8号館

報告題：「ヨーロッパにおける法曹教育と司法修習の動向」

講師：浦川道太郎（早稲田大学）、須網隆夫（早稲田大学）

◎7月1日 早稲田大学27号館

報告題：「口頭コミュニケーション能力の鍛錬」

講師：ジョー・ルイス（ワシントン大学セントルイス）

通訳：宮澤節生（青山学院大学）

◎7月18日 早稲田大学8号館

報告題：「アメリカにおける法曹教育の動向—2009年AALS年次大会と『ベスト・プラクティス』シンポジウムの参加報告—」

報告者：大坂恵里（東洋大学）、宮澤節生（青山学院大学）

◎8月5日 早稲田大学8号館

報告題：「国際臨床法学教育ジャーナル・オーストラリア大会の参加報告」

報告者：後藤弘子（千葉大学）、須網隆夫（早稲田大学）、武田昌則（琉球大学）、ベラ・フライ（琉球大学）

◎10月31日 早稲田大学8号館

報告題：「法学研究と法曹リカレント教育を視野にいたれたエクスターンシップ—龍谷大学の実践—」

報告者：萩屋昌志（龍谷大学）

◎2010年1月20日 早稲田大学8号館

報告題：「法科大学院が提供する司法修習プログラム—法曹の生涯学修過程への展望—」

報告者：米田憲市（鹿児島大学）

◎2月27日 早稲田大学8号館

報告題：「アメリカ法科大学院協会2010年年次大会参加報告」

報告者：宮川成雄（早稲田大学）、上柳敏郎（弁護士）、大坂恵里（東洋大学）、原口佳誠（早稲田大学）

(3) 会員総会・理事会・委員会

◎機関誌編集委員会

4月25日 早稲田大学8号館

- ・第2回年次大会の機関誌への掲載方針を検討した。
- ・機関誌第2号の編集方針を検討した。

◎2009年度春理事会

4月26日 早稲田大学8号館

- ・理事互選により宮川成雄（早稲田大学）を理事長に再任した。
- ・庶務委員会、研究企画委員会、及び機関誌編集委員会の委員分掌を決定した。
- ・理事外から佐藤崇文（広島大学）、萩原猛（大宮法科大学院大学）、及び花本広志（獨協大学）を研究企画委員に、また、大坂恵里（東洋大学）を機関誌編集委員に嘱任することを決定した。
- ・第3回年次大会の会場校として一橋大学を決定した。

◎会員総会

4月26日 早稲田大学8号館

- ・2008年度決算及び2009年度予算を承認した。
- ・理事会推薦理事として、田中宏（弁護士）、後藤弘子（千葉大学）、松村和徳（岡山大学）、山中至（熊本大学）、及び四ッ谷有喜（新潟大学）を承認した。監事として、木村美隆（中央大学）及び中村芳彦（法政大学）を承認した。
- ・会則改正2件（機関誌名および監事任期）が承認された。

◎拡大研究企画委員会

6月14日 早稲田大学8号館

・第3回年次大会（会場：一橋大学）の開催日を、2010年4月25日（日）と決定し、部会構成及び全体シンポジウムの企画方針について検討した。

・*Best Practices for Legal Education*の翻訳書の進捗状況が報告された。

7月18日 早稲田大学8号館

・第3回年次大会の部会構成を2部会とし、各々のテーマを「新人法曹からみた臨床教育と司法修習（仮題）」、及び「法科大学院における模擬裁判教育（仮題）」とすることを決定した。

・第3回年次大会の全体会シンポジウムについては、現実の紛争当事者に対する法律サービスを提供する臨床教育手法ゆえになしうる当事者の視点に立った、紛争解決者・社会正義の実現者としての法曹養成の方法論について、座学の法理論教育や、「見て学ばせる」方法をとる司法修習と対比して検討する。

8月26日 早稲田大学8号館

・「模擬裁判」部会の報告の基礎となる全国法科大学院への模擬裁判アンケートの項目を検討した。

・「模擬裁判」部会と「新人法曹と臨床教育」部会の企画内容を検討した。

・全体シンポジウムの企画案「臨床教育による『社会の医師』としての法曹の養成」について、企画内容を検討した。

◎機関誌編集委員会

8月31日 早稲田大学8号館

・『法曹養成と臨床教育』第2号の校正稿を査読した。

・同号に掲載する臨床法学教育関係の文献リストを検討した。

・同号に掲載する書評候補文献を検討した。

◎拡大研究企画委員会

9月24日 早稲田大学8号館

・模擬裁判全国調査アンケートの質問票の内容を検討した。

・第3回年次大会の企画を検討し、部会A・Bおよび全体シンポジウムの報告者を検討した。

・科研費臨床法学グループとの中韓日ワークショップの共催について検討した。

9月24日 早稲田大学8号館

・第3回年次大会（会場：一橋大学）の「新人法曹と臨床教育」部会、「模擬裁判」部会、および全体会シンポジウム「臨床教育による『社会の医師』としての法曹の養成」における報告者の人選を検討した。

・第3回年次大会において、中国および韓国の研究者による法曹養成改革と臨床教育の状況についての特別講演を設定することが決定された。また、日中韓の臨床法学教育の相互協力についてのワークショップを科研費臨床法学グループと共催することが決定された。

◎2009年度秋理事会

11月15日 早稲田大学8号館

・第3回年次大会の概要を決定した。

・年次大会の前日に、日中韓・臨床法学シンポジウムを科研費臨床法学グループと共催することを決定した。

・2010年5月末に、法曹養成と医師養成について臨床方法論の比較を行うシンポジウムを、科研費臨床法学グループと共催することを決定した。

・機関誌『法曹養成と臨床教育』第2号の完成と発送予定が報告された。

◎拡大研究企画委員会

2010年3月4日 早稲田大学教職員レストラン

・シンポジウム「動き出した法曹養成と医師養成の連携—臨床方法論による専門職教育の課題—」（開催日：5月22日午後、場所：早稲田大学）の内容を検討し、法学側および医学側報告予定者による意見交換を行った。

・このシンポジウムで扱うべき主要論点として、次のものが議論された。1. 医学教育と法学教育において臨床実習が重視されるに至った経緯、2. 臨床実習に出る学生の基本的知識と技能の認証方法、3. 模擬依頼者と模擬患者の活用と課題、4. 国家資格取得前の教育カリキュラムにおける臨床教育の効用と権限問題、5. OJTの限界と大学における専門職養成の課題

\*\*\*\*\*

本学会への入会手続は、学会HP<<http://lawschool.jp/cl/>>においてオンラインで可能である。なお、問い合わせは下記の学会支援機構宛にお送りいただきたい。

一般社団法人・学会支援機構 臨床法学教育学会係

住所：〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F

電話番号：03-5981-6011

F A X 番号：03-5981-6012

メール：[gakkai708@asas.or.jp](mailto:gakkai708@asas.or.jp)

\*\*\*\*\*